

## 会 議 録

会議の名称	第6回行田市補助金等調査委員会
開催日時	平成28年3月28日(月) 開会；午後1時30分・閉会；午後4時30分
開催場所	行田市役所 2階 203会議室
出席者(委員) 氏名	秋山義継会長、吉田幸一委員、小川栄一委員、有田親史委員、 矢田千賀子委員、江黒早苗委員
欠席者(委員) 氏名	なし
事務局	財政課：横田課長、近藤主幹、川上主査、加藤主任、高澤主事
会議内容	・補助金等の各課ヒアリング
会議資料	(資料名・概要等) ・ヒアリング対象補助金一覧
その他必要 事項	傍聴者 なし

秋山会長	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 議事</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の公開、非公開の取扱いについては、個人情報を取扱うことがないことから、原則公開とする。</li> <li>また、会議録についても、委員名を明記した上で要点筆記とし、市政情報コーナー及び行田市のホームページにおいて公開する。</li> <li>・保険年金課から説明を求める。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>健康診断助成金（保険年金課）</b></p>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの生活にとって、健康のために大変貴重なものである。ここ2、3年以内で受診された数はどのくらいか。</li> </ul>
新井課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直近3年間の実績を申し上げる。平成24年度実績では、人間ドックが32名、脳ドックが8名、併診ドック（人間ドックと脳ドックを同時に受診された場合）が6名で、合計46名である。平成25年度実績は、市報ぎょうだの影響もあるが、人間ドックが68名、脳ドックが33名、併診ドックが9名の、合計110名の助成である。平成26年度実績は、人間ドックが51名、脳ドックが27名、併診ドックが15名の、合計93名の助成である。</li> </ul> <p>市民への周知は、平成25年度に初めて行い、平成26年4月にも周知を行った。平成26年度は、初めてその制度を知った方もおり、年齢も75歳以上の方が対象であるので、毎年度ドックを受けなくてもよいと考える方もいて、若干数値が下がっている。平成27年度も数値は集計中であるが、昨年度とほぼ同数かと思われる。</p>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これについて、小川委員はどうか。</li> </ul>
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こういった健康診断によって、いろいろな方の病気が発見されて助かった、あるいは治癒したなどの統計はあるのか。</li> </ul>

新井課長	<p>・本事業については、受検して助成金を交付して、医療機関から請求がくるが、請求と一緒に受検結果の一覧表を市の方でもいただいている。ただそれをもとにフォローアップというのは、昨年度まで行ってこなかったが、本年度から、受検の結果で5段階でA（一番良い方）の方は連絡をしていないが、再検査の必要のある方や、検査内容に良くないことがある方については、市の方から電話でご本人様に連絡し、必要なアドバイスを保健師あるいは看護師が行うようにしている。</p>
有田委員	<p>・利用者の数をお聞きしたが、利用率はどのくらいか。</p>
新井課長	<p>・後期高齢者の被保険者は、75歳以上の方全てになるので約1万名の被保険者がいるが、その中から見れば、一部の方ということになる。健康管理という面から見ると、尿検査や血液検査などの健康診査を実施しており、年間2,300～2,400名くらい、受診率で約25%の方が受けている。</p>
有田委員	<p>・市報ぎょうだで周知されて人数が増えたということなので、もっと工夫すれば利用率も上がるのではないかと思う。助成額や自己負担額について、インセンティブをつけて補助をすればよいと思う。例えば、検診結果のリスク抑制状況とか、初診の方に厚く支給をしたりするなどの自己負担額への取り組みである。ウォーキングをする方に対しては、その実績に応じてインセンティブを付ける仕組みなどが、自律的な健康管理の促進に繋がるのではないかと思う。結果的に、適正な補助金の額になっていくと思われる。</p>
矢田委員	<p>・多くの方が受診できるように、先々の病気を軽減するための広報活動を広めていただきたい。</p>

江黒委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・せっかくの補助金で対象者が少ないというイメージがあるので、病気になる前の早期発見が大切かと思う。広報活動の周知徹底が、保険料等の費用削減に繋がると思う。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100人前後くらいだと思うが、受診した方々のアンケートをとっているのか。例えば、非常に心配性の方は毎年受けたいという方もおり、たまたま今年あたりを受けてみようという方もいると思う。医療機関もサービス業としての側面もあるので、たとえ、この補助金であってもこれが効果的に使われているのかを、受ける側ばかりの満足度ではなく、サービス業の方から出したサービスに対して受ける側がどのように捉えたかを把握しておくと思う。</li> </ul>
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を参照すると、市内の医療機関だけの助成ということでよいか。</li> </ul>
新井課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度だけでなく、平成27年度も同様に、市内の医療機関のみで行った。平成28年4月からは日本国内全ての医療機関で受診した場合に、この金額と同額を助成する。ただ、助成の方法は、全額窓口で検査料を支払っていただき、領収書と検査結果等をお持ちになっていただいて、後日、通帳の方に振り込む形になる。市報ぎょうだへの周知は、平成28年4月以降に行う予定である。</li> </ul>
<p><b>産科医等手当支給支援事業費補助金（保健センター）</b></p>	
江黒委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支給先が行田中央総合病院のみであるのは理由があるのか。</li> </ul>
森原所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内で分娩ができるのが行田中央総合病院のみとなっているためである。産科の妊婦健康診査は、他の病院でもできるが、出産（分娩）ができるのは1件だけになる。</li> </ul>

	<p style="text-align: center;"><b>市民フォーラム開催事業交付金（保健センター）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に質問なし</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>食生活改善推進員活動費補助金（保健センター）</b></p>
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本補助金の始期は、昭和 47 年度からであり、創設から 43 年以上も経過し、補助額が 10 万円であるが、継続をする必要性はあるのか。</li> </ul>
森原所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際、同様の団体と比較してみれば、10 万円という補助額は決して多いわけではない。補助額に対して、食生活改善推進員の方の市の事業に対する貢献度が非常に大きい。年間 30 を超える事業に休日とかの時間を割いて出ているので、そうした状況を考えれば 10 万円という金額は決して多くないと考える。</li> </ul>
矢田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活改善推進員についてだが、10 万円が高いか安いかわからないが、活動の様子を見るともっと多くの費用をかけてやっているような状況であるので、一つ応援をしていただければと思う。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>保健活動推進費交付金（保健センター）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に質問なし</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>禁煙チャレンジ応援プラン助成金（保健センター）</b></p>
江黒委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・禁煙に成功できなかった方への交付はどうか。</li> </ul>
森原所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交付はできない。申請する段階で説明を申し上げている。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>不妊治療費助成金（保健センター）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に質問なし</li> </ul>

<b>妊婦健康診査助成金（保健センター）</b>	
小川委員	・行田市の住民であれば、未婚、既婚を問わず、妊婦であれば対象であるのか。
森原所長	・対象である。
矢田委員	・妊婦健康診査助成金だが、効果の中に、里帰り出産などの理由により、契約医療機関で健診を受診することができない妊婦に対してもサービスをしていただけるのか。
森原所長	・そのとおりである。行田市以外の所でも、医療機関が本市と契約を結んでいただければ、例えば、1万円診察でかかったとしたら、医療機関との契約により本人がその場で支払うお金が2,000円とか3,000円で済む。医療機関が、契約を行田市とできない場合は、一時的に全額支払いとなるが、後日償還払いという形をとっている。
<b>骨髄移植ドナー助成金（保健センター）</b>	
秋山会長	・利用されている方もいれば、利用されていない方もいるなど、補助金のあり方も問題点としてある。骨髄移植ドナー助成金は、特定補助という形にもなっているので、使われなかった場合は、返納するということになるのか。
森原所長	・骨髄移植ドナー助成金は、申請後に行田市が一時的に支出をするが、当市が県に必要額を請求し、歳入として入金される仕組みとなっている。
秋山会長	・そういった面では、問題が発生していないということと理解した。

### 保健センター交付補助金共通

秋山会長

・今、少子化の問題や高齢化の問題で、助成が大きい自治体に住民が移るということもあり、各自治体間の競争が激しくなっているが、そういった面で助成金の中で、母子に関するものがあるが、行田市としての考えはどうか。

森原所長

・行田市の母子保健に係る環境というのは、例えば子育て支援分野の妊娠から出産に至るまでの妊婦に対するケアにおいて、近隣自治体と比較した場合、助産師という専門職が保健センターにいて、非常に手厚い体制を取っていると考えている。ただ、それを幅広い機会を通して周知をしているが、なかなか使って下さる方が少ないのが現状である。もっと気楽に使える制度や形をとっていく必要があると考えている。

また、もう一つ、成人保健事業などに関しては、一つ例をとると、予防接種の助成があるが、他市と比較して安い金額ではないのが現状である。というのは、行田市は自己負担金については、ワクチン代相当分をいただくという明確な根拠があるが、他の自治体をとってみれば、例えば、行田市が4,000円の自己負担金をいただいているものを、2,000円や1,000円というところもある。しかしながら、自分の健康を守る上で、ワクチン相当分はご負担していただくというのをご理解いただけて続けることが安定した保健事業の継続に結びついていくと考えている。母子・成人ともに事業をご理解いただくために、根気強く市民の方と向き合っていくと考えている。

秋山会長

・今の世の中、自治体間の競争が激しくなり、禁煙チャレンジ応援プラン助成金を市内の方ばかりではなく、他の市町村に住んでいる方にもアピールするなど、自分自身からPRする時代であるので、行田市の強みである点を補助金のあり方という面から発信するというのを考え、その上で発信をどのようにするかということを考えていかな

	<p>ければならない。例えば、良い面は、担当課だけでなく、口コミ等を使って発信していただき、費用対効果を検証するなどが考えられる。これらの取組みにより、行田市の自治体の力が向上するものと思われる。補助金の方は、もっと増やすべきということによいか。</p>
森原所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厳しい財政を考慮して、現状維持を考えている。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>幼稚園就園奨励費補助金（教育総務課）</b></p>
有田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園就園奨励費補助金について、平成 25 年度決算から、平成 26 年度予算まで前年度比で、16,957,600 円増えているが理由は何か。</li> </ul>
内田課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制度が多少変わっており、交付される限度額は 308,000 円であるが、新制度という形で、2 人目、3 人目に支給する割合を変えて、補助金額を上げている。</li> </ul>
有田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体的に、多子世帯に手厚くなっているのか。</li> </ul>
内田課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ そのとおりである。今の基準は、小学校 1 年生から 3 年生の兄や姉がいる場合は、第 2 子としてとっているが、以前はなかったものである。その関係で、第 2 子の定義を変えている。来年度についても、この辺の定義が変わり、今は小学校 1 年生から 3 年生という縛りがあるが、来年度は縛りがなくなり、支給対象が増えることになる。</li> </ul>
有田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の市と比べて、同等の基準やそれ以上の基準となっているのか。</li> </ul>
内田課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国の方で基準が決まっている。</li> </ul>
有田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実績の報告が各学校法人から上がってくるかと思うが、実績の精査の方法はどのようなものか。</li> </ul>



内田課長	・実績のチェックは、第2子の該当する金額のチェックのみである。補助金額の金額が様々であるので、それを確認している。
有田委員	・市町村民税の所得割を確認されて、第2子、第3子がいらっしゃる方ということで、申請を受けて、補助金の額を確認されて、それを1件1件チェックするわけであるか。
内田課長	・税務関係のデータを、同意を頂いた上で調べ、補助金額を決定している。
有田委員	・金額も大きいのでチェック機能が必要と思われる。
<b>教育振興奨励費補助金（教育総務課）</b>	
小川委員	・教育振興奨励基金の運用益を活用しているとのことであり、予算も130万円だが、運用方法が定期預金であることは理解できたが、運用益は130万円以上となっているのか。
事務局	・130万円には達していない。
内田課長	・予算措置していただいたの対応である。運用益が良い時は、行うことができたが、現在の低金利においては難しい。
有田委員	・教育振興奨励費補助金は、申請額に対して交付額が小中学校に対しては満額が出ているが、それ以外の団体には、申請額に対して交付額が一部しか出ていないものもあり、どのように決まっているのか。
内田課長	・なるべく申請された方に平準に行くような形をとっており、スポーツ団体などがあるが、なるべく均等に全部に行くように補助金額を上

	<p>下させている。</p>
有田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見る限り小中学校には満額で、それ以外は満額でないということから、公平性は保たれているのか。</li> </ul>
内田課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の方が、研究事業等で費用がかかるということで、団体については10万円を限度、個人については5万円を限度に交付しているが、学校の方が、より研究性が高いということで、10万円を交付している。確かに、各種団体についても、必要な団体は多いと思うが、社会教育関係は5万円と10万円で行っている。学校の先生が主にメインで研究を実施しているので、その一助となればと多少多めに交付している。学校関係が少なければ、同じ130万円の予算内から社会教育関係の方は増やすということになる。</li> </ul>
有田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算金額は130万円と限られているので、適切に配分をお願いしたい。</li> </ul>
矢田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の方はいつ申請をされるのか。例えば、平成28年度に学校として研究があった場合は、どうなるのか。</li> </ul>
内田課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年、審査会というのが3月にあり、教育総務課の方から募集をかける形である。</li> </ul>
矢田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全部の学校でなく、希望をされる学校から受けるわけであるのか。</li> </ul>
内田課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのとおりである。</li> </ul>
矢田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年によっては、その応募が少なければ予算の130万円の配分先を違うところに回すことができるということか。</li> </ul>

内田課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのとおりである。3月の下旬くらいに、審査委員会があり、検討して決める。</li> </ul>
矢田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そこでは、社会教育団体も同時に応募をかけるのか。</li> </ul>
内田課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのとおりで、同時である。</li> </ul>
江黒委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それ以外の団体というのは同じであるのか。</li> </ul>
内田課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体は毎回変わる。</li> </ul>
江黒委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容や事業内容も変わることを確認しているのか。</li> </ul>
内田課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容と事業内容を提出していただいて、審査をしている。</li> </ul>
江黒委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金の額と、実際の活動内容は同じであるのか。無駄はないのか。</li> </ul>
内田課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後に決算報告を提出して頂いて、それに基づいて、支払をしている。決算内容を見て問題がなければ、支出をしている。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告書を見て、毎年同じぐらいの金額が出ている。例えば、スポーツみたいに結果が出るものは効果が明らかであるが、交流の絆などというのは、内容的なものを見て、無駄なことや、今の時代に即していないなどがある。どの組織でも決算報告を含めて、発表したりするのが求められているので、市民の皆様に対して、補助金が大切に使われているということを示す報告書の作り方も必要ではないか。</li> </ul>

<b>スポーツ事故等見舞金（教育総務課）</b>	
秋山会長	・スポーツ事故等見舞金に関連し、スポーツ事故は起こらないようにしていると思うが、年間の事故発生件数は何件か。
内田課長	・今年度については、8件である。6級の1万円を交付する方が4人、5級については3人、4級は1人であり、合計では診断料のお金も含まれているため多少バラツキがあるため141,100円である。
秋山会長	・大きな事故はなかったか。
内田課長	・大きな事故はなかった。ただ、4級の方で骨折された方がいる。
秋山会長	・最近は、組体操の関係は、各自治体で禁止になっているところもあるが、どうか。
内田課長	・それほど大きな組体操ではないが、特に禁止はしていない。
秋山会長	・各校の先生方もしっかりと指導をされているので、問題ないと思われる。
小川委員	・スポーツ行事で、怪我をされた方にも見舞金が出るが、地域の地区の体育祭や運動会も対象になるのか。
内田課長	・対象になる。
<b>奨学資金給付金（教育総務課）</b>	
	・特に質問なし

	<p style="text-align: center;"><b>児童派遣費補助金（教育総務課）</b></p> <p>・特に質問なし</p>
	<p style="text-align: center;"><b>生徒派遣費補助金（教育総務課）</b></p> <p>・特に質問なし</p>
	<p style="text-align: center;"><b>少年スポーツ振興事業交付金（教育総務課）</b></p>
秋山会長	<p>・少年スポーツ振興事業交付金について、他の担当課から重複的に交付されていることはないか。</p>
内田課長	<p>・授業で使うものについては、学校へ補助しているが、これについては野球やサッカーなどの部活動に対して補助金を交付しているものである。</p>
秋山会長	<p>・学校側からこういった補助金があるということで、申請がされると思うが、予算的に消化をするために使うというようなことはないか。</p>
内田課長	<p>・教育総務課で交付金を割り振りして、学校の方で必要なものを買っていただいている。</p>
秋山会長	<p>・例えば、用具等を購入した場合に、耐用年数を把握しながら、補助金を支出しているのか。</p>
内田課長	<p>・ボールのような消耗品的なものも含まれるため、教育総務課としては耐用年数までは管理をしていない。学校の方で管理をしている形である。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>教育振興奨励費補助金（学校教育課）</b></p>
矢田委員	<p>・学校自体はとても忙しいという感想を持っている。国や県からの研</p>

	<p>究事業をなささいという指示があり、学校教育課から各学校に指示が出ると思われるが、非常に忙しい業務の中で、一番大切なのは、やはり先生と子供たちの信頼関係と、本当に純粋な各教科の勉強かと思う。その中で、プラス教育振興奨励費補助金があるとなれば、個人としてもグループにしても関心を持つ先生方も多く、じゃあこれをやってみようかなということも多くなり、さらに業務が増えているという感想も持っている。</p>
吉田委員	<p>・個人 1 件につき原則 3 万円、グループ 1 件につき原則 6 万円というのは、ご意見はあるか。</p>
今成主幹	<p>・確かに、上へ上となればかかるものはかかるが、この上限は適正であると考えている。</p>
吉田委員	<p>・どうやったら、教職員の資質の向上が上がるのかという点に重きを置いて、補助金の分野とは異なるかもしれないが力を入れて、是非ともやっていただきたい。</p>
	<p><b>教育視察補助金（学校教育課）</b></p>
小川委員	<p>・これは毎年度 4 校か、4 校以外に手を挙げて申請・研究を行っている学校はあるのか。</p>
五十部主幹	<p>・教育研究事業の発表校にあたっている学校は、必要であるということである。</p>
矢田委員	<p>・教育視察補助金もそうだが、県から指定もあり、今年はどこそこの少中学校という指定もあり、本当に年間を通しての煩雑な業務も増えるわけである。それを補助する意味で、補助金を交付しているのかと思うが、その中で講師謝礼もでき、多くの方も招くこともできること</p>

	<p>になる。そこをご理解し、教育委員会としてご尽力を尽くしていただきたいと思う。書類の提出や報告は大変かと思うが、ご検討ご尽力をお願いしたい。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>生徒指導校内研修補助金（学校教育課）</b></p>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金額については、毎年同じような流れだが、補助金についての意見はどうか。</li> </ul>
五十部主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状維持を考えている。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交付の目的・必要性の中に、教職員の資質の向上を図るとあるが、これはどのような資質の向上が図られたといえるのか。</li> </ul>
五十部主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資質としては、研究課題に対してのまとめたことによる研究の成果とその中での成長が大きいのではないかと考えている。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、どのような点に活かされていると考えているのか。</li> </ul>
五十部主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に対しての工夫が活かされていると考えている。</li> </ul>
今成主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の資質と言いますと、指導力の向上というのがメインになってくる。指導力の向上を図るためには、やはり研究をしなければならない。時代の流れもあり、新しい教育指導法やスキルを身に着けさせて、その結果、子供たちの学力向上に繋がっていくと考えている。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>進路意識啓発モデル事業交付金（学校教育課）</b></p>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路意識啓発モデル事業交付金を設置する根拠は書かれているが、金額的には小さいが、大変な効果が上がっていると考えてよいか。</li> </ul>

五十部主幹	<p>・進路意識啓発モデル事業交付金については、平成 28 年度は県からの補助金はなくなったため、他の補助金の方から必要な場合は、踏み込んでいくことも検討している。</p> <p style="text-align: center;"><b>中学生社会体験チャレンジ事業交付金（学校教育課）</b></p> <p>・特に質問なし</p> <p><b>寺子屋事業（未来の行田を担う子ども育成事業）交付金（学校教育課）</b></p> <p>・特に質問なし</p> <p style="text-align: center;"><b>ものづくり大学連携事業交付金(学校教育課)</b></p> <p>・特に質問なし</p> <p style="text-align: center;"><b>行田市特別支援学級合同学習補助金（学校教育課）</b></p> <p>・特に質問なし</p> <p style="text-align: center;"><b>教職員研修補助金（学校教育課）</b></p>
小川委員	<p>・人権問題は、様々なものがあるが、主なものは何か。</p>
今成主幹	<p>・県から、人権課題がいくつか提示されている。また、新たな人権課題ということで、例えば、福島原発によって差別を受けている方への配慮や、北朝鮮の拉致問題なども挙げられている。</p> <p>研修としては、県から、埼玉県の人権感覚育成プログラムというものが提示されており、それに長けた方を派遣いただいて、子供たちにわかりやすく人権を教えるという教授法についても研修を行っているところである。</p>



小川委員	<p>・同和問題や DV や障害者などの様々な人権問題があると思われるが、それ以外の全ての問題も対象にされているということが理解できた。</p>
有田委員	<p>・交付にメリハリをつけた方が良いと考えている。全部を細かく見ていくと、支出の金額がラウンドの数字になっている。数字がぴったりとなっていておかしいと思われる。一つは、支出金額について精査がされているのか。その効果について検証されているのか。</p> <p>もう一つは、どこを重点的に補助するのか。教育というのは大切であるが、補助金の額は限られているので、今後の行田市の子供ために重点的に配分していくのが大切である。</p>
五十部主幹	<p>・今、補助金として存続をしているのは、今までの中で必要であるということで残っていると考えている。どこかに絞ってということも重要であるが、受け手の学校としては、これだけに特化することができない部分もあり、このような形になってきていると考える。今後もその必要性がないということであれば、廃止を検討しなければならない。学校の事業を行う上で、該当する補助金が組み込まれているため、その辺から整理するとなると学校現場の授業の進め方も検討しないといけないと思われる。今後とも検討していきたい。</p>
有田委員	<p>・結構時間がかかると思うが、計画的に行えばできることである。ちようどの金額になっているので、支出金額が適正ではないと思われる。学校側かイニシアティブをとるのか、もしくは行田市側がイニシアティブをとるのかはわからないが、どちらかがここに重点を置いて行った方が効果的な運営ができると考える。</p>
<p><b>学校教育課交付補助金共通</b></p>	
秋山会長	<p>・色々な名称があるので重複しているような補助金はないのか。教育</p>

江黒委員	<p>というのは、重点的に非常にお金をかけなければならない分野と、グレーゾーンでコアな部分でカバーできるような部分もあって、整理しないとなかなか踏み込めない分野である。是非とも、整理をできるものは整理をし、必要なものは単独の市の予算で作るべきであると思われる。</p> <p>・学校においてより良い教育をするのはお金がある程度かかると思うが、多くの申請を見ると、始まった時期が不明であり、例年どおりという形で、この申請書を出せばこの補助金が貰えるという形で行っているというイメージを持っている。実際、どのように具体的に使っているかということが見えない申請書が多い。時間がかかると思うが、学校に対して、具体的にどのような補助金が必要か汲み取り、必要でないところには削減していくことが必要であると考えている。</p>
秋山会長	<p>・教育というのは時代や環境と共に、変化をしていくものである。補助金には補助限度額があり、そこまでなんとか使い、ただ継続していると捉われる可能性がある。各先生方もこういったことでオーバーする場合もあった、あるいは、少なく終わったということもあったということになると、教育がきちんとなされて、それぞれの先生方の資質の向上に繋がっていると捉えることができる。教育に関する予算というのは、それぞれ重点的に捉え、検証していかないと、ただ膨張する一方である。</p> <p>後から見ると、何にも変化がなかったと一般の市民から捉えられてしまう可能性がある。このため、先生方が変わっていかないといけない。特に、資質という面では若い先生から中堅、ベテランとなると、色々な面で特徴が出てくるので、どの辺の先生方の資質が、あるいはどの辺に先生方がどういうことをもっと学んでいなかいかといけないか、そのためには補助金をもっと必要なのか、あるいは整理して一括してやってもいいものなのか、様々な時代的な流れの中で、行田の子供たち</p>

	<p>の更なる教育的な成果を上げるために、行政側も教育の現場も一体となって検証することが大切である。大変数値的には小さい金額ではあるが、子育てをする世代にとっては非常に関心のある事業であるので、更なる成果を期待している。</p>
秋山会長	<p style="text-align: center;"><b>ぎょうだこどもまつり補助金（ひとつくり支援課）</b></p> <p>・平成 24 年度から平成 26 年度にかけて、一般財源の支出額があるが、少し下がったり上がったりということがあがるがどのような経緯があったのか。</p>
杉山課長	<p>・こどもまつりの決算額に増減が出ているという趣旨で、決算額は平成 24 年度が 60 万円、平成 25 年度が 55 万円だが、予算上は 70 万円を計上している。決算上 70 万円を超えていない年もあり、この場合は補助金を精算し返納しているために、ばらつきが出ているところである。補助金の用途は、こどもまつりでお楽しみコーナーを設営する材料代、それから、お子様にそういったコーナーを回っていただくときにスタンプラリー形式にしており、終わったお子様に送る景品代、テントや机、椅子、発電機、プラカードなどの会場の設営代となっている。毎年同様の事業を行っている形であり、決算額は 55 万から 60 万円程度を推移しており、10 万円程度を返納しているところである。ブースが増えると、テントやコーナーの材料費がかかるので、この 70 万円というのは妥当であると考えている。</p>
吉田委員	<p>・予算額が平成 23 年度に 90 万円から 80 万円に減額、平成 24 年度に 80 万円から 70 万円に減額となり、その後 70 万円の定額補助となっているのは、少子化に伴っての減額であるのか。</p>
杉山課長	<p>・お祭りの内容が若干変わってきており、補助金額 90 万円の時代はミニ SL、ステージを設置して発表を行うなど、イベントとしての規</p>

	<p>模も大きく、内容も盛り沢山だった。</p>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容が濃かったものを、薄くしたのはなぜか。</li> </ul>
杉山課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決して内容を薄くはしていない。お金をかけずに参加していただいている団体の方々に、手作りでお子様に楽しんでいただくという趣旨で、イベントに取り組んでいただいております、参加者も減っていない。今年度は、約 2,200 人のお子様・保護者の方が参加した。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課として 90 万円に戻して欲しいという要望はあるのか。</li> </ul>
杉山課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状のままだとこの金額で十分であるが、例えば、ふわふわドームなどの子供が喜ぶ機材を持ち込んでいくともっと補助金が必要になると考える。今の時点では手作りで行うということに意義を感じているので、不要になった空き缶を利用して工作したり、小豆などを箸で移動させる小豆運び、磁石を使ったマグネット魚釣りなどお金を使わなくても楽しめる企画をしている。団体の方からも意見を聞き、こちらがお金をかけて大きな機材を持ち込めば楽しくなるというお祭りでなく、コンセプトにあった手作りのまつりを体現していきたい。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手作りは手作りで良いと考える。</li> </ul>
矢田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の最後に、第 25 回浮き城のまち行田こどもまつり会場案内図があると思うが、1 番から 9 番まで色々なコーナーがあり、そこではそのコーナーのバルーンアートというのは、行田市ジュニアリーダークラブが率先して運営して下さるわけだが、その方へは報酬はないのか。</li> </ul>
中村主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報酬なしの、ボランティアである。</li> </ul>

矢田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経費の中に会場設営ということで一番高い費用をかけているが、これは何に使用されているのか。</li> </ul>
中村主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テントの設営費用である。</li> </ul>
矢田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テントの設営は費用がかかるのか。</li> </ul>
中村主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多額の費用がかかるものである。テント設営も見積もりを何社から取り廉価な業者を採択している。</li> </ul>
矢田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもまつりは多くの方のボランティアに支えられているということが理解できた。70万円の定額補助で、残金があり、この資料を見ると、228,171円は繰越をして、またそういうことでの定額補助をとっているというわけか。</li> </ul>
中村主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あくまでもこどもまつりのテーマが「元気いっぱい 夢いっぱい ～つくって遊ぼう～」なので、そういった趣旨に賛同していただける団体であれば、窓口を広げて歓迎をしているところである。</li> </ul>
秋山会長	<p style="text-align: center;"><b>成人式記念行事実行委員会交付金（ひとつくり支援課）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成人式記念行事実行委員会交付金は17万円ということで大変少ない金額であるが、様々な創意工夫をされて、各新成人の門出をお祝いしていると思うが、今後も補助金を増額する見込みはあるのか。</li> </ul>
杉山課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金額が少ないのではないかと、このまま推移していくのかというような趣旨の質問であったかと思うが、こちらの用途としては、成人式のアトラクションの中で抽選会を開いておりその景品に10万円、警備員委託料に3万円、切手等のプリンターのインク代3万円で非常に</li> </ul>

	金額としては小さいが、一般会計から成人式の看板の設置費用なども出ている。会場が行田市の公共施設で実施していることから、会場借上料もかからないため、この費用で実施できている。
吉田委員	・「平成 27 年行田市新成人を祝う会」実施報告を参照すると、出席率が 82.18%という数値が出ているが、大体毎年このくらいの数値で推移しているのか。
杉山課長	・対象者が毎年、変動するので、昨年は成人式の対象者が 937 人と、平成 28 年は 843 人と、100 人近く減少しており、出席者が 100 人近く減っている。特に大事にしている数値は、出席率であり、平成 27 年の 82.18%が、平成 28 年は 78.05%と若干減っているが、行田市の成人式出席率は県内でも高い方で、他市では 60%から 70%のところもある。
	<b>公募行田市美術展交付金（ひとつくり支援課）</b>
秋山会長	・平成 9 年から継続ということで、25 万円というのは、交付された当時から増減はあるのか。
杉山課長	・公募行田市美術展交付金は、過去から 25 万円で推移している。
吉田委員	・交付金が 25 万円で、経費の精算額を見ると、921,897 円となっており、この差異はどうやって扱っているのか。
杉山課長	・収入から支出を引いた残、要するに繰り越しを、次年度に繰り越ししている。
吉田委員	・こういう計上方法を毎年しているのか。921,897 円の経費の精算額があり、毎年繰り越しがあるから、これはなんとか間に合っていると

	<p>いう解釈か。</p>
杉山課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無料で出品しておらず、1件につき2,000円の出品料をいただいているので、公金に大きく依存することなく、事業が実施できている。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2,000円という金額を頂いているのは良いが、補助金のあり方の検討の委員会であるので、補助金額の25万円は妥当であるのか。</li> </ul>
杉山課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妥当であると考えます。</li> </ul>
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の出品数を見ると、それぞれの部門毎に合計が219点である。絵画の入選者の内訳をみると、市内の方が38名、市外の方は48名であり、対象者は市外の方が多いは当然だが、大体出品する方が、毎年絵画にしても彫刻にしても、同じような方が出品されている。新規の方が少ないと思われる。対象者がいないと言われればそれまでだが、出品する方は、2,000円の出品料を取るのに対し入選された方の賞品が決算書をみると約165,000円なので、もう少し優秀な作品は、賞品レベルを上げてみたらどうか。賞品で引きつけるわけではないが、出品する方も増えてくるのではないかとと思われる。</li> </ul>
杉山課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賞品欲しさに出品されている方もあまりいないのではないかとと思われる。やはり賞をいただいて認められるという名誉心で出品されている方が多いのではないかとと思われる。きちんとした賞品をお出しするというのは、市の美術展の格を上げていくということに必要だと思われるので検討をさせていただきたい。</li> </ul>
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私も表彰式を見たことがあるが、やはり賞品だけに関わらず、表彰されるのは出品者にとっては名誉なことで、嬉しい笑顔を見せて感動している様子である。賞品を一つ充実していただければ良いと思われ</li> </ul>

	る。
有田委員	・出品料を頂いて運営されているということだが、決算書を拝見すると、自立的に運営できているものであると思われる。繰越金が発生しているので、使いきって次の予算で、また予算取りをするというのを検討してもよいのではないかと思われる。
杉山課長	・ご指摘のとおり、先ほどの賞品の中身のご質問と関連すると思われるが、報償費は金額的に小さいかもしれないのでそういったところを見直して、残額が出ないように調整してまいりたい。
	<b>ひとつづくり支援課交付補助金共通</b>
秋山会長	・補助金・交付金というのは、増えたからオーバーしても良いのかというのが当然出てくると思われるので、自立しているものは自立してやっていくのが必要な時代になっていくと思われる。出品数や参加者の数によって動くので大変難しいところであるが、上手に考慮しながら、数値的なものを出していく必要がある。
	<b>鉄剣マラソン大会開催事業交付金（スポーツ振興課）</b>
秋山会長	・鉄剣という名称があるのは、何か理由があるのか。
橋本課長	・稲荷山古墳から出土した、「金錯銘鉄剣」があり、そちらに因んで名称をつけている。
秋山会長	・マラソン大会は、各地域の自治体の主催で行われるなど、全国でも盛んに行われていることがあるが、参加規模は他市と比較して大きい方なのか。
橋本課長	・規模は 4,000 名弱であり、かなり好評を得ている。



秋山会長	・補助金の継続についての意見はどうか。
橋本課長	・鉄剣マラソンの開催経費が、1,800万円前後かかっている。その収入は一人3,500円をいただいて、それで大体1,200万円ぐらいである。それから補助金の500万円、それから協賛金として200万円弱の収入によって開催をしており、工夫次第では、補助金を少し抑えることもできると思われる。
秋山会長	・参加費の3,500円というのは全国的にも適正であるのか。
橋本課長	・適正であると考えてる。
吉田委員	・鉄剣マラソンに対して、全国各地から来ていただいているわけだが、第31回行田市鉄剣マラソン大会決算書の支出の部で、記録計時業務委託料の予算額600万円というのはどういうものか。
橋本課長	・計測を全て業者委託しており、全てのエントリーしている種目別に、チップをシューズにつけていただいて、スタートラインを越えた時点からゴールまでの自動的に計測していただくものである。チップに参加者名等が記録されたものを用意していただいている。 このぐらいの規模の大会だと、どこの大会でもやっているもので、正確に計測できる。これを手動で行うのは不可能であると考えてるため、やむを得ない金額であると考えてる。
吉田委員	・走る方の立場では、時間を計測するのは大切なものであるが、それにしても大きい額であると考えてる。
小川委員	・大会が中止になった場合、参加者からいただいた参加料は返すのか。

橋本課長	・原則として返却しない。
小川委員	・苦情はなかったのか。
橋本課長	・苦情は何件かあった。原則として、マラソン大会はよほどの荒天でない限りは中止にならない。雨が降っているぐらいでは中止にならない。3年前に一度爆弾低気圧が来て中止になった。その時は、苦情があった。参加規定ルールにおいて、万が一の場合でも返却をしない旨を明記している。
小川委員	・コースの方もマンネリ化して変えた方が良いなどはあるか。
橋本課長	・コースは古墳を通過し、桜や菜の花が咲いているところを選んで走っているので大変好評である。今年は、武蔵水路の改修が終わり、水路の東側に道路ができたので、好評であると思われる。
吉田委員	・警備はしっかりした方が良いと思われる。
有田委員	・毎年4,000名弱の方が参加されるということで、鉄剣マラソンを通じて行田市のアピールになるのではないかと考える。先ほど、繰越があるので、削減も可能という話もあったのだが、私は逆で、もっと有効に活用したらよいのではないかと考える。一つは、宣伝であったり、もう一つは警備の問題であったりなどである。その辺はどうか。
橋本課長	・警備については、毎年少しずつであるが、警備委託料を増やしている。警察からもテロ対策に十分気をつけるようにというご指示もあり、手厚くはしている。

有田委員	・有効に活用して欲しいと考える。
江黒委員	・行田市以外からの参加者の割合はどのくらいか。
橋本課長	・行田市内の参加者は去年で 13%であった。それ以外は、県内は 61%であり、県外は 39%である。北は北海道から、南は福岡県まで参加していただいている。
江黒委員	・良い宣伝になっていると考える。
橋本課長	・良い PR になっていると考える。
秋山会長	・大きな成果が上がることを期待している。
<b>火災り災者住宅家賃補助金（建築課）</b>	
秋山会長	・直近では補助金交付申請が何件かあったのか。
斎藤課長	・過去 5 年間の実績であると、平成 23 年に 2 件、平成 24 年に 2 件、平成 25 年に 1 件、平成 26 年に 1 件、平成 27 年は申請なしである。
吉田委員	・火災り災者住宅家賃補助金交付決定通知書を参照すると、備考欄の内容で、決定通知書を通知する前に、申請書の中に、(1) 賃貸借契約を解除したとき、(2) 生活保護を受けることとなったとき、(3) その他申請内容に変更が生じたときというものをクリアして、初めて決定通知を出せるのではないか。
事務局	・決定通知書は例のとおり、7 月に通知されており、3 か月先の分をここで決定する。ここでは決定までで、実際に補助金を支出するのは全て支出した後である。したがって、実際に払った後に支出するので

	<p>この備考欄に記載してよいと考える。前金で払って、実績に基づいて精算していくものである。</p> <p style="text-align: center;"><b>自主防災組織設立補助金（防災安全課）</b></p>
秋山会長	<p>・最近では、防災に対する取組みは自治体で力を入れているところであるが、担当課として十分であると判断するのか。</p>
柿沼主幹	<p>・金額の多寡はあるが、実際に申請の出た団体では、自治会の中の経費を使った訓練を行うことが見込まれているため、実際に組織ができたタイミングで、購入していただいた時点で、負担を市がするという事は、組織の設立を把握する意味もあり、非常に効果があると考えている。</p>
矢田委員	<p>・平成 26 年度行田市自主防災組織補助金交付要綱に基づく実績報告書及び収支報告書を参照すると、11 の自治会が掲載されているが、年度ごとに自主防災組織を設立した自治会がこのように報告書を提出しているのか。</p>
柿沼主幹	<p>・そのとおりである。実際に組織ができたタイミングで申請いただくところであるが、市内の自主防災組織は自治会の約 97%で設立されているが、このうち、設立した際に防災資機材を購入し、補助申請した団体は 186 自治会のうち 96 自治会ある。しかしながら、自主防災組織を設立したが、防災資機材を購入せずに補助申請をしていない団体が 85 団体ある。自主防災組織の実際の活動には防災資機材は不可欠であると考えことから早期に防災資機材の購入と補助申請を促すことが必要な状況であると認識している。</p>
秋山会長	<p>・各自治体をみると、どの自治体も防災には力を入れているようだが、安心安全な体制を目指していただきたい。</p>

・ 次回の会議の日程（平成 28 年 5 月 12 日（木） 午後 1 時 30 分の開催）

・ 以上をもって第 6 回補助金等調査委員会を閉会する。

< 閉会 >